



つながろう

CO・OP アクション情報

2011年9月14日

第2号

◆リレー寄稿① ～震災半年を過ぎて



いわて生協
専務理事 菊地 靖氏

この間の全国の生協の皆さんの支援に感謝いたします。

震災発生から早くも半年が経過しました。いわて生協では、震災直後の物資・食事支援から、その後のボランティア活動の組織など、可能な限り被災者ニーズに沿った支援を心掛けてきました。

岩手県では、8月で全ての避難所が閉鎖され、被災者たちは新たな環境での生活に踏み出しています。

しかし、がれきが片付き始めたとは言え、漁業や工場の復旧は遠い道のりで、仕事を失った被災者の不安は深刻です。仮設住宅入居者だけではなく、支援が届かないアパートへの避難者も含めて心のケアが必要になっています。

地場産業の復興、被災者の心のケアと自立支援に、生協の事業、組合員組織の持つ力を役立てていきます。

台風12号に伴う甚大な災害で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。生協は全力を挙げて支援に取り組みます。(関連情報4面にて掲載)

地元商品の利用で岩手の復興を！

～いわて生協「復興支援・地産地消フェスタ」を開催～



沿岸部と内陸部の企業・団体が共に協力し合い、岩手の地域復興を目指していく。

震災発生から半年となる9月10日(土)、11日(日)の2日間、いわて生協の店舗・コープAterui(奥州市)が入るショッピングセンター「カルチャーパークあてるい」で、第4回「復興支援・地産地消フェスタ」が開催されました。

会場となった駐車場に並んだのは、いわて生協と地元・奥州市の23社、そして沿岸部の30社など、合計60のテントです。被災地からは旬の野菜や魚介類、加工品が届けられ、その場で焼いたり、弁当として提供されるものも多く、親子連れやお年寄りなど参加者たちの舌を楽しませました。特設ステージでは、地元の団体による太鼓演奏や鬼剣舞に加え、津波の被害を受けた沿岸部から、釜石虎舞(釜石市)や氷上太鼓(陸前高田市)などの参加もありました。初日午後、特設ステージで行なわれたのが「復興支援チャリティオークション」。司会を務めた、いわて生協「マリンコープDORA」(沿岸部の宮古市)の菅原則夫店長は、絶妙なトークで会場を沸かせ、沿岸部と内陸部をつなぐ役割を果たしました。これらイベントには、2日間で約2.2万人が訪れました。



「かけあしの会」でCDを販売する香木みき子さん。

音楽CD「明日への虹…」発売

全国大会で優勝し、若手民謡歌手として期待される宮古市の小田代直子さん。自身、家を流されるなど被害に遭いましたが、避難所を回って被災者を元気付けてきました。小田代さんが歌う「明日への虹…」の発売元「復興プロジェクトかけあしの会」の代表を務めるのが菅原則夫店長。理事の香木みき子さんと共に作詞にも関わりました。

◆震災後、初めて
自分の事で泣いた
～蛇田店コンサート

「演奏を聴いて、震災以降初めて、自分の事で泣きました」と、「世界一楽しいタクトの音楽祭 in 石巻」を企画したみやぎ生協理事の大和きよ子さん。特に、客席と一緒に歌った日本の唱歌「ふるさと」は胸に迫るものがあったそうです。

「ずっと忙しかったのですが、泣くことで癒やされました。客席には立ち見を含めて100人を超えるお客さまがいらっしゃいました。8割以上は被災された方です。こういう時間は貴重ですね」

みやぎ生協・蛇田店では大和さんたちの企画で毎週木曜日の午後「オープン・カフェ」も開かれ、コーヒーやお菓子と共にゆっくりできる時間を提供しています。「ここで学生時代の同級生と再会したとか、そんなお話もあるんですよ。生協のメンバー（組合員）で良かったと本当に思いますね。全国の生協の皆さんからも物心両面での励ましをいただいて、勇気付けられました。失ったものは多過ぎるけど、得たものもたくさんあります」



大和 きよ子 理事

みやぎ生協コンサート・時に拍手喝采、時に涙

9月11日、みやぎ生協・蛇田店（石巻市）では、「世界一楽しいタクトの音楽祭 in 石巻」を開催、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。著名指揮者の形態模写で有名な好田タクトさんの指揮、バイオリンの早川きよ一じゅさん、斎藤昌彦さん、フルートの村野直子さん、エレクトーンのさとうりょうさん



観客からのリクエストに応え、「アメイジング・グレイス」も演奏。

の各氏による、時にユーモラスな演奏に拍手喝采です。宮城の樽漕ぎ歌「斎太郎節」や唱歌「ふるさと」は客席の皆さんも一緒に歌いました。

司会を務めた、みやぎ生協ボランティアセンターの須藤敏子さんは、「ふだんのくらしに戻るには長い時間がかかります。音楽で笑ったり泣いたりしていただくのもいいですよ」と話していました。

蛇田店では今年6月11日に、昨年のNHK紅白歌合戦出場者であるクミコさんや宮城県出身の歌手・かの香織さん、仙台のFM局でパーソナリティを務める歌手のEPOさんを招いてのコンサートも開いています。

発災から半年、店舗職員全員で黙とう



復興記念タオルを広げる千葉店長。



レジで記念タオルを受け取るメンバー。

同じ9月11日、みやぎ生協・榴岡店（仙台市）では、復興記念セールが行なわれました（みやぎ生協全店で開催）。発災以来初となる「2,000円以上のお買い上げでポイント7倍」に加え、記念タオルを先着1,000名様にプレゼント。小雨の降る中、いつもより1時間早い朝9時のオープン時から、たくさんのメンバー（組合員）でにぎわいました。

「榴岡店は、震災の影響で店舗施設の復旧工事のために4カ月半お休みしていました。7月27日に改修オープンでき、少しずつ復興しています。長い休業でしたが、オープン日には予想以上のメンバーさんに来ていただき、本当に良かったと思っています」と千葉壽彦店長（写真左上）。

発災の翌日から5月の大型連休前まではお店の前で販売を続け、その後、お店は休業しての改修工事となりました。

「発災から半年を迎え、朝会では全員で黙とうを捧げました。大変な災害ですが、それだけに生協の持つ役割は大きいと実感しています。これからもメンバーさんのために頑張ります」

千葉店長を先頭に、榴岡店でも、復旧・復興へ向けての取り組みが始まっています。

◆リレー寄稿② ～震災半年を過ぎて



パルシステム福島
専務理事 安齊 雄司氏

全国の生協の皆さんの支援に感謝いたします。

パルシステム福島では、9月4日、復興祭を開催しました。震災発生時に支援物資を供給したいわきセンターを会場に、組合員のご家族約2,000人にご来場いただき、大盛況で元気付けが出来ました。

これまでの復興支援では、パルシステムグループ生協からの支援物資と、災害支援を専門とするNPO法人の継続した支援がありました。また、地元で献身的なボランティアリーダーがいて、ベースとなったいわきセンターとパルシステム物流のインフラがあり、これらが有機的に機能したことで、支援活動を推進できました。

家を失い、仕事を失い、故郷を失った被災者へ“希望の光”が必要です。「『何かできることをしたい』という、あの時の思いを忘れないぞ!」と行動を続けることが大切だと思っています。

浜北医療生協・福島の子どもをキャンプに招待

浜北医療生協（静岡県浜松市）では、「被災地を想うひまわりプロジェクト」を立ち上げ、長期にわたる支援活動を行なっています。その一環として、この夏、福島県の子どもたちを静岡県に招待し、2泊3日のサマーキャンプを2回開催しました（約150人が参加）。招かれたのは福島医療生協と福島中央市民医療生協、郡山医療生協の職員・組合員と子どもたち。

子どもたちは、照りつける8月の太陽をものともせず、サッカーや野球などで体を動かしたり、小川で水を掛け合ったりしていました。小さな水路で「何かいないかな?」と生き物を探す子どもの姿も。

「子どもが外で遊んでいる姿を見るのは久しぶりです。アスレチックが楽しかったようですよ」（福島市から2人の息子さんと参加の高見欣也さん）

浜北医療生協の高瀬信之事務長は、「子どもたち

を安心して遊べる地域に連れ出すことで、現地の人たちの不安な気持ちをやわらげたい。『みんなで一緒に頑張っていく』という、地域を越えた絆をつくれれば、長い戦いもきっと乗り越えられる」と話します。費用も、組合員さんや地元の町内会の皆さんに寄付を募ったところ、予想以上の反響があったそうです。「心ある人は多い。『生協がこの地域にあってよかった』と思ってもらえる生協にしたいですね」（高瀬さん）



1日の行動予定や熱中症への注意伝達。



子どもたちの笑顔があふれ歓声が響く。

コープおおいた・福島の地で交流会開催



選果場での桃の試食。



福島のわらじ音頭を全員で。

コープおおいたでは、震災発生直後に16人が福島に入り、炊き出しや灯油搬送、店舗支援等を実施。その時現地入りした青木博範専務理事は、被害の甚大さと復旧に全力を尽くすコープふくしまの職員の熱意にうたれ、継続的な支援を決意。以来、物資提供など、コープふくしまとの密な連携のもとで、支援活動を続けています。

8月24～26日にはコープおおいたの職員や組合員、関連業者の皆さんなど37人が福島県を訪問。一行は桃の選果場や農場、沿岸部の被災地を視察し、24日の夜はコープふくしまの皆さんとの交流会が開かれました。「継続的な支援には、現状をしっかりと把握すること。福島の方から直接話を聞き、交流する機会を設けることが重要と考え、この交流会を企画しました」（青木専務）

交流会で信頼関係がさらに深まり、福島県産品の買い支え、大分県内での放射能勉強会の実施等が今後予定されています。翌日25日には、地元教育委員会から「足りていない」との情報を得ていた教室設置用の扇風機を相馬市に、義捐金を新地町に、さらに両市町に記念樹の苗と花の種を届けました。「今回の交流で互いに助け合うという生協の原点の大切さを感じました。顔を合わせ、長期的な支援につなげていくのは、まさに生協らしい支援だと思います」（コープおおいた・組合員参加者）

◆サンネット事業連合
「復興支援・福島の
桃キャンデー発売」



復興支援企画商品として、サンネット店舗商品部とUHA味覚糖株式会社による「特濃ミルク8.2プレミアム 白桃のコンポート」(93g・198円)をみやぎ生協、いわて生協、生協共立社、コープふくしまの4生協79店舗で発売中です。濃厚ミルクと甘酸っぱい福島の桃のプレミアムな味わいをぜひお試しください。

◆茨城県生協連
「各地で放射能関連
学習会開催」



茨城県生協連では、6月以来県内各地で放射能関連学習会を開催しています。講師は、放射線を専門に研究している田内広先生(茨城大学)。放射性物質とは何か、放射線による体と健康への影響、日常生活のおくり方、食生活上での注意点などを学んでいます。各会場では、子どもへの影響をはじめ、暫定基準値の疑問や、家庭菜園、洗濯物の外干しといった日常生活への疑問などについて参加者が質問し、それらに田内先生が丁寧に答えています。

<復興関連情報一覧>

【岩手県】

いわて生協

・「がんばろう! 岩手」マーク入りどら焼き販売中(いわて生協12店舗にて限定販売中)、宮古産業まつり&地産地消フェスタ(10/1-2)、盛岡から大槌町へのボランティアバス(9月に6回)、釜石、大槌、山田の仮設住宅13か所で食器類の無償提供を実施(9/10・11・19)

【宮城県】

みやぎ生協

・「ゆきちからまんじゅう」9月15日より1,400箱追加販売(サンネット事業連合加盟店舗限定にて追加販売)、「浪の音」9月末から10月初めにかけて、みやぎ生協酒取り扱い店にて販売、仮設住宅での夏祭り(9/3、多賀城城南仮設住宅)、被災者支援文化企画「梵天コンサート」(9/11、亘理店)

【福島県】

コープふくしま

・自治体とNPO放射線安全フォーラムによる除染活動に対する協力「放射能除染プロジェクト設置」、除染機器の使用に関するOJT教育・学習会(9/5)

各県連等

- ・福島県生協連/コンシューマーズ京都にて現状と課題報告(9/10)、農協農村問題研究所と福島大学協同組合ネットワーク研究所合同シンポジウム(9/17)
- ・茨城県生協連/生協役職員向け放射線学習会(9/17) <左欄下記事>
- ・コープネット事業連合/復興支援募金(6/21~12/20、全会員生協)
- ・パルシステム連合会/「パル復興支援・ボランティア派遣連絡会議」(9月中)

台風12号大雨被害に対する生協の取り組み

台風12号は紀伊半島南部に過去最高の降雨量を記録、平成以降最悪の台風被害となりました。被災地生協では被害発生以降、行政からの物資要請に応える活動や組合員の安否確認とお見舞い活動を続けながら、被災者の救済・救援活動に奮闘しています。コープみえでは、9月8日から組合員約800世帯への訪問活動を実施、ボランティアセンターへの食品無料提供も行っています。三重県学校生協も熊



三重県紀宝町の様子(コープみえ撮影)

野地域の小中学校・高等学校へペットボトル水300ケースを届けました。ならコープは天川村・黒滝村より要請を受け、飲料水・食品・ティッシュペーパー・消毒用アルコールなどを輸送拠点にお届けしました。わかやま市民生協でも緊急物資要請を受け、コープきんき事業連合と協力し、缶詰7,230缶と飲料水を提供しました。また三重県・奈良県・和歌山県生協連が合同で災害支援募金口座開設について検討中です。台風12号の大雨被害地においても、生協は全力を挙げ、被災地支援に取り組んでいます。



つながろう CO・OP アクション情報
(隔週水曜日発行・次回9月28日発行予定)

発行 日本生活協同組合連合会(担当部局会員支援本部出版部)
〒150-8913 東京都渋谷区渋谷3-29-8 コーププラザ11F
Tel: 03-5778-8183 / Fax: 03-5778-8051
action@coop-book.jp